

演習問題

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に描き出して**みてください

R03 ウラ模試 1

[No.7] 昼光・照明に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 人の目には明るさの変化に順応する能力があり、明順応より暗順応のほうが時間を要する。
2. 受照面が、均等拡散面である場合の輝度は、照度と反射率の積に比例する。
3. 昼光による室内の照度分布を均斉にするためには、窓に光の拡散性が高いガラスを用いる場合より、透明なガラスを用いる場合のほうが、効果は大きい。
4. 照度と色温度の関係において、一般に、低照度では色温度の低い光が好まれ、高照度では色温度の高い光が好まれる。

[No.9] 音響に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 透過率は、「壁へ入射する音のエネルギー」に対する「反射されなかった音のエネルギー」の割合であり、透過損失は、透過率の逆数を「dB」で表示した値である。
2. 施工性に優れるボード直張り工法（コンクリートにせっこうボードを接着剤で点付けする方法）は、せっこうボードを張り付けることによって壁体全体の面密度が高くなるにもかかわらず、一般に、遮音等級 D による評価は低下する。
3. 建築物及び建築部材の空気音遮断性能の等級における **Dr-55** は、**Dr-40** に比べて空気音の遮断性能が高い。
4. 多孔質吸音材料を剛壁に取り付ける場合、多孔質吸音材料と剛壁面との間の空気層を厚くすると、一般に、低音域の吸音率が高くなる。

R03 ウラ模試 2

[No.9] 音響に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 低音域共鳴透過現象は、一般に、中空二重壁等において生じる現象であり、単層壁では生じない。
2. 室内の騒音が、共通のダクトでつながっている他の室に伝達される現象を、クロストークという。
3. 音の聴感上の特性は、パワーレベル、音の強さのレベル及び音圧レベルの三要素によって決まる。
4. 環境基本法に基づく騒音に係る環境基準において、「道路に面する地域」以外の地域における夜間の基準値は、昼間の基準値に比べて 10dB 低い値とされている。

[No.10] 音響に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 音圧のレベルが等しい純音を聴くと、一般的に、1,000Hz の音より 100Hz の音のほうが小さく感じられる。
2. 音の強さのレベルを 20dB 下げるためには、音の強さを 1/100 にする。
3. 岩綿吸音板と化粧石膏ボードは、表面の凹凸が類似している場合、同様な吸音効果がある。
4. 単層壁による遮音において、同一の材料で壁の厚さを薄くしていくと、コインシデンス効果による遮音性能の低下の影響範囲は、より高い周波数域で現れる。